

奈良市 手をつなぐ親の会だより	NO 384	令和3年9月30日(木)	
	発行	奈良市手をつなぐ親の会	
	会長	小西 英玄	
	所在地	〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内	
	Tel 0742-71-0770	http://naraoyanokai.info/	

皆様お久しぶりです。お元気でした？
ご家族、ご親戚、お友達 コロナ大丈夫ですか？
ワクチン接種は無事終わりました？



久しぶりに逢う方とのご挨拶がこの様な会話からは始まる生活、何時まで続くのでしょうか。贅沢ではなく以前の様な「あたりまえ」がありたく感じます。

令和3年総会。顔が見える総会の開催を願っていたのですが、今年も「書面総会」になったことお詫び申し上げます。会員の皆様のご協力により、総会の議事内容が承認されました。ありがとうございました。

▼「神のみぞ知る」世界

新型コロナウイルスの新規感染者数が全国的に減少傾向にあり、第5波はピークアウトの様相を呈していますが「これで一安心というわけにはいかない」と専門家の間では、これから冬にかけて第6波が到来すると予想されています。

冬場には再び感染が拡大する要因がいくつも指摘されています。まず、気温が下がり、空気が乾燥する冬は、ウイルスの生存率が高まるうえ、長時間にわたって空気中を漂うことができるようになるため感染力もアップ。冬は生きたウイルスが長時間広い範囲に浮遊する季節だそうです。そうした環境に加え、ワクチンの効果が切れてくるタイミングに突入すると指摘されています。ワクチン接種によって産生された中和抗体の量＝抗体価は3カ月から6カ月で減少するといわれているため、これから冬場にかけてワクチンの効果が弱くなる懸念があるのです。

冬は徹底した換気が重要になってきます。ちょうどワクチンが効かなくなってくるタイミングで、人流が活発になる年末年始を迎えることも不安材料。

「ワクチン接種が終わって安心したのか、昼間なら問題ないだろうと密着状態で会食している人をたくさん目にします。そんな感覚のまま忘年会や新年会など人が集まる機会が多くある年末年始に突入すると、第6波は第5波を超える感染者数になり、重症者や死亡者も爆発的に増える懸念があります」感染再燃の条件が整う今冬は第6波が到来すると想定し、あらためてしっかり感染対策が必要です。「いま新型コロナウイルスの感染経路は空気感染とされています。感染力が高い変異株はマスクによる予防効果は小さくなっているため、他者との距離＝フィジカルディスタンスと換気がこれまで以上に重要です。マスクをきちんと装着したうえで、会話は短時間で済ませ、多人数で集まることを避ける。窓を閉め切りにせず、複数の窓や扉を常に5センチほど開けて空気の流れをつくり、扇風機を使って室内の空気を屋外に送り出すことを心がけましょう。議論があるワクチンの3回目接種や、PCR検査の再拡充、感染者の隔離・治療体制の整備は、第6波に間に合いそうもない。まずは、個人個人が感染対策を見直し、あらためて徹底させることが大切だ。」と感染症の専門家からのアドバイスを伝えます。

こうなると、益々皆さまとお逢いする機会が遠のきます。コロナ終息には2～3年かかるともいわれており、それも完全ではなく、その頃には治療薬も開発されているだろうと「神のみぞ知る」世界だそうです。

▼サービス等利用計画は子どもたちの「未来予想図」

I サービス等利用計画の必要性は？

- 1) ニーズに基づいた本人中心の支援が受けられます。
障害福祉サービス等の情報を受け、望む生活を含む利用計画にそって複数のサービス調整を受け、一体的・総合的にサービスの提供をうけることが可能になります。
- 2) チームによる質の高いサービスが提供できます。
ライフステージを通して切れ目なく支援をつなぐことを可能にします。サービスについても、福祉、療育、医療、教育、就労、住宅、司法等広い領域にまたがり、フォーマル・インフォーマルと多様になっています。これらを適切に調整して質の高いサービスを提供できます。
- 3) サービス提供(支給決定)の根拠となります。
障がい者の生活実態や望む生活のニーズを明らかにし、それを実現するためにはどのような種類のどれだけの量のサービスが必要であるかを明らかにして、財政支出の根拠にもなります。
- 4) 地域全体のサービス充実の契機となります。
地域の量的に不足しているサービスや存在していないサービス等についての気づきが生まれます。その結果、障害者福祉計画に反映して地域のサービスの充実に繋がります。

II サービス等利用計画の備えるべき特徴は？

- 1) 自立支援計画であること
障がい者が、地域で自立的な生活を可能とするための計画とする事が求められています。自立については自分自身で自分の生活や生き方を決めていくこと(自律)が重要であることから、意思形成・意思決定を支援する観点からも作成される必要があります。
- 2) 総合支援であること
本人の希望にそって、相談支援専門員が本人と共に創る生活設計です。そして、多くの領域(福祉、療育、医療、教育、就労、住宅、司法等)を含んだトータル(総合的)の生活設計です。
- 3) 将来計画であること
乳幼児期には発達、学齢期には教育、成人期には就労等のライフステージに応じてニーズも異なり計画の内容も異なってきます。この様な多様なニーズに応えられる計画である必要があります。生活の困難さやしづらさに対応する事も重要ですが、今は実現していないが将来実現したい生活、あるいは望む生き方に対する将来設計(未来予想図)の視点が必要です。その際、障がい者が社会の一員として積極的に社会の中でその役割を果たしていくという社会参加の観点から計画が作成されることが重要です。
- 4) ライフステージを通じた一貫した支援計画であること
乳幼児期から学齢期、成人期まで、障がい者のライフステージによって、支援者、関係機関等はさまざまに変化していきます。ライフステージの変化、特に教育から就労等の移行期においてつながりが途絶え、障がい者が困難を抱えるケースがあります。サービス等利用計画は、切れ目なく支援をつなぐためのツールです。
- 5) 不足するサービス・資源を考える契機であること
作成を通じて、不足しているサービスの状況など地域の課題が見えてきます。相談支援専門員が作成するサービス等利用計画は、地域の弱みを強みに変え、地域に必要な制度やサービスの改善・開発につながる具体的な契機となるものです。
- 6) ネットワークによる協働であること
サービス等利用計画は、さまざまなサービス提供事業者や地域の社会資源と関係することから、人と人を結ぶネットワーク構築の働きを持ちます。この様なネットワークで支援を続ける事が「福祉で街づ

くり」につながるのです。

このようにサービス等利用計画は、奈良市の福祉そして、私たちの子どもには、必要不可欠な福祉施策であることがお分かり頂けたでしょうか。これを担当するのが相談支援専門員の方です。

ここで2つの課題があります。

- ① 趣意は素晴らしいですが、担当する相談支援専門員の質が問題です。
- ② 現在の福祉、施策、サービスすべて、現状への後追いです。後だしジャンケンです。・と言う事は未来を観てないのです。『生活の困難さやしづらさに対応する事も重要ですが、今は実現していないが将来実現したい生活、あるいは望む生き方に対する将来設計(未来予想図)の視点が必要です。その際、障がい者が社会の一員として積極的に社会の中でその役割を果たしていくという社会参加の観点から計画が作成されることが重要です』

では、どの様にすればいいのでしょうか。相談支援専門員は研修会では理解しています。でも現場では稼働していません。契約が一年更新と言うのもあるのかも知れません・・・。

▼この様な相談支援専門員さん募集中

「私たち家族は将来この様な生活を送りたいと考えています」

「分かりました。ではサービス等利用計画に反映しますから、お聞かせいただけますか」

「親子で生活出来る施設です。まもなく私は後期高齢者になり、介護保険の申請も考えています。子どもはGHを4日/週利用しています。」「出来れば今のままの生活パターンを継続させたいのですが」

「親や子で利用できる施設ですね」

「はい。自宅は有りますが出来れば、子どもは友だちと一緒に生活が出来、少し親とも生活をしたと思います」

「お母さんの気持ちよく分かります。」「皆様と、一緒にサービス等利用計画を創りましょう」

「ありがとうございます」「もし、私たちがいなくなっても、子どもは友だちと生活出来る。そして、生活する場所も変えることなく生活できればと願っています」

「お母さんの気持ちよく分かります。私も子どもがいます。同じ母親感覚で理解できます」 「現行の制度では、課題があります。他府県では、お母さんが介護保険、子どもさんが総合支援法で同居されているケースがあります。奈良市でも自立支援協議会相談支援部会で取り上げ検討をお願いします」

「ありがとうございます。私たちも家庭で出来る事、また帰宅時の子どもの情報をモニタリング以外でもお伝えします。お時間を頂ければ嬉しいです」

「次回、具体的に何年後を考えてられるかをお聞かせください。お母さんの介護保険も地域包括支援センターに伝えておきます」「これからは、地域包括支援センターと一緒に進めて行けるよう調整してみます」「途中で考え方が変わってもいいですからね」
「大切な事ですから、ゆっくり考えていきましょう」

「ありがとうございます。なんかホットした気分です。貴方にお話してよかったです」

この様な、ご家族と共に創るサービス等利用計画。出来れば良いですね。